

だっこするよ

平成29年11月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



誰かが誰かを教育するのではない・・・

空が高く澄み渡り、風がサラッとして心地よい季節です。早いもので11月7日はもう「立冬」「立」は新しい季節が始まるという意味です。この頃から冬の気配が感じられるようになります。寒さは苦手ですが、赤や黄色に美しく色づいた葉や木の実や空の青さは、地球からの贈り物のように思います。

園の小さな探検隊たちは、東西南北の公園へ歩き、自分たちの住む世界を自分の体で知ろうとしています。見て、触って、拾って、五感を通して沢山の不思議や発見を堪能したいと活動的です。いつも主人公は自分ですね。体力もついてきました。大人が教えた情報よりも、自分で見つけた出会いこそが真実への関心や理解につながりますね。だからこそ、今、好奇心の塊のような時間の瞬間、瞬間を大切にしたいです。小さな生き物も植物も水も土も自分で直接触れて確かめること、健康的な生活ですね。そして、10月末きりん組でなんとザリガニの出産、小さくてもザリガニの赤ちゃんがピンピンと生きていて、みんなで覗いています。自然はいつも Beautiful で Fantastic ですね。とても美しく感動しました。

運動会が終わり、クラスもぎゅっとまとまり、いい感じです。今年度も体育館での開催となり、また入れ替え制へのご協力や沢山の声援や拍手を有難うございました。お陰様で一人ひとりの成長を讃える運動会になりました。こどもたちの自信に満ちた表情を見て、行事はこどもたちの成長への大きな節目になると感じました。特に年長児は、最後の運動会、年長児の誇りを持ち、年下のクラスにも優しく接するなどリーダーシップを見せてくれ、成長を感じました。今までの時間が積み重なって「みんなで考えて決めよう」と個人から仲間になっていくからです。こども集団は、初めは容赦なく厳しくて違いを非難して、時には仲間外れもします。でもやがて善悪や痛みを知って誰かを排除することがつまらなくなる。また、安心して自分の弱みを見せられ、もともとの違いが当たり前になっていくと言葉や身体での対話が生まれ、その中で群れとして過ごす姿が見られてきます。クラスの誰かのことも、自分のクラスのことも、みんなのこととして考えられるようになります。すごいですね。こどもたちの柔軟性は。

現代社会は、個で生活し、個で活動するのに快適な社会になりつつあります。自分のことだけ考えていれば良いとなるのですが、他者と関わらなくなると「人間」には育たないんですね。脳を使い、身体を使い、交じり合って「人間」へと育つ過程を大切に见守っていきます。

誰かが誰かを教育するのではない

自分が自分で教育するのでもない

人は自らを教育しあうのだ

相互の交わりの中で

ブラジルの「教育学者パウロ・フレイレ」の言葉より

夕方の園庭で年長児と相撲をとりました。肝心の相撲は、まだまだ修行が必要ですが、なかなかいい勝負をしていました。全身を使って遊ぶ、全力で押す、突っ張る、踏みとどまる、相撲は日本の国技であり奉納相撲をして五穀豊穰を願ったといわれ神技です。これから四股踏み練習から楽しみたいと思います。

写真は、つばめ組さんの秋見つけた！！です。みんな真剣に集めていますね

